

金剛萱遺跡の旧石器文化8—2023—

Palaeolithic Culture of the Kongogaya site in Gunma Prefecture, 8, 2023

金剛萱遺跡研究会^{*1}

Kongogaya site research group

キーワード：後期旧石器時代初頭、石器、発掘、無斑晶質安山岩、石器製作場所

Key words : Earliest Upper Palaeolithic, stone tool, excavation, aphyric andesite, stone tool making site

はじめに

金剛萱遺跡は群馬県甘楽郡下仁田町青倉にある独立峰の標高 788 m の金剛萱の頂上より一段下にある緩斜面地に所在する旧石器～縄文時代を主体とする遺跡である。金剛萱遺跡は2007年から地質調査が始まり、コンニャク畑地点は2009年に旧石器～縄文時代の遺跡と確認された（金剛萱遺跡研究会ほか編2014）。コンニャク畑地点より標高が高い林道地点は、2011年に調査が開始され2022年までに13回の発掘、および地質調査が実施されている（金剛萱遺跡研究会2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2023a）。その後、2023年4月28日～30日に第14回、同年10月20日～22日に第15回の発掘調査が行なわれた（金剛萱遺跡研究会2023b）（第1表）。調査地付近は地形図以上の正確な標高が求められず不明であるが、国土地理院の電子国土 WEB から読み取った標高は、コンニャク畑地点が 680 m、林道地点が 695 m である。本稿は、2023年発掘調査の概要を報告する。

2023年発掘調査地の状況と調査の概要

発掘地（林道地点）は、下仁田町大字青倉金剛萱

1031番地にあり、針葉樹の植林地の中にある。広いコンニャク畑（コンニャク畑地点）の南側にあたり、未舗装の作業道の敷地である（第1図）。この場所では作業道が原地形をかなり削って通っていて、道路面は掘削された場所で、下仁田ローム層上部（関東火山灰グループ（2009）が露出している。したがって、道路面をそれほど掘削しなくても目的とするAT層直下の暗色帯を調査できる状況となっている。

発掘地における地質層序は、作業道部分では地表からかなり削平されている状態であった。上位から表土と黒色火山灰土層が 20～0 cm、20～10 cm黄褐色ローム層、20～0 cm明褐色軽石層（浅間板鼻褐色軽石：BP）、20 cm暗黄灰褐色ローム層、13 cm褐色軽石層（浅間室田軽石：MP）、10 cm黄灰褐色ローム層、3 cm±黄灰色ガラス質細粒火山灰層・レンズ状（始良 Tn 火山灰 AT）、15 cm黄灰褐色ローム層、10 cmやや暗色の黄灰褐色粘土質ローム層（暗色帯）、4 cm±灰白色軽石・黄褐色軽石まじり灰褐色細粒火山灰層（Yt-pm4）、25 cm黄灰褐色ローム層という層位である（第2図）。

剥片等の遺物は、このAT層準から下位の暗色帯付近から多く出土しており、特にYt-pm4の層準付近が安山岩石器群の生活面とみられる（口絵1-②）。

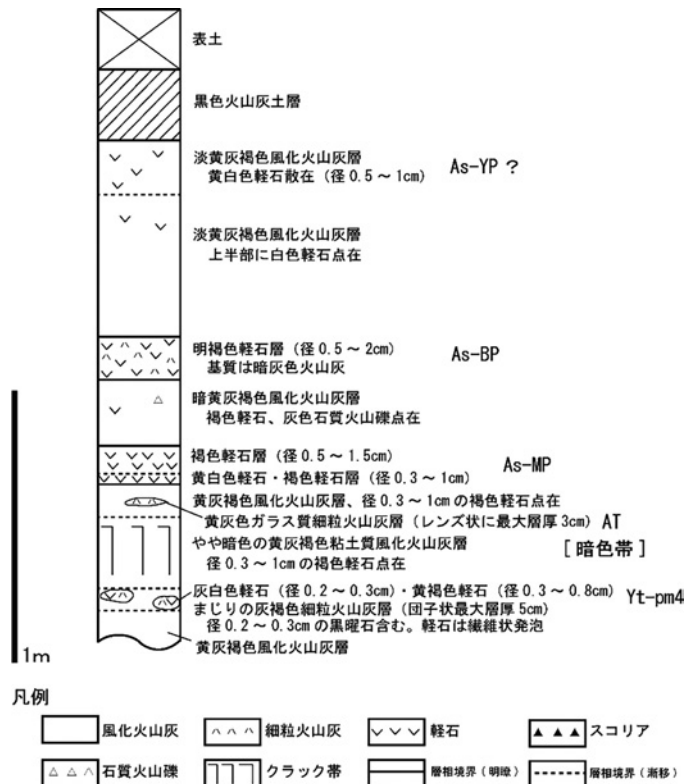
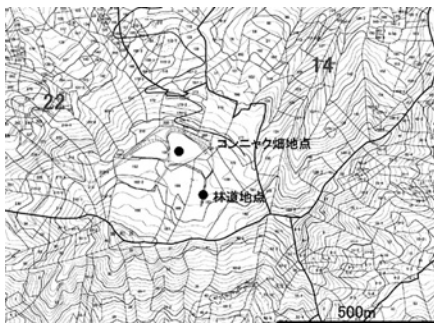
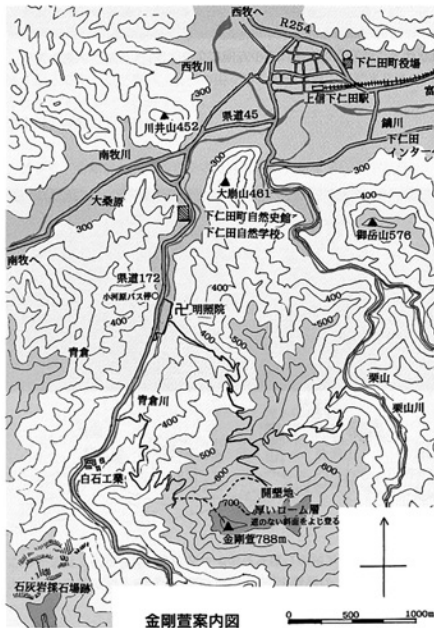
2024年2月26日受付。2024年3月9日受理。

^{*1} 事務局：〒370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 下仁田町自然史館 中村由克気付（naka-m@opal.plala.or.jp）
c/o Yoshikatsu Nakamura, Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan

執筆者：中村由克[○]、両角太一、野口智輝、須藤隆司、麻生敏隆、小林忠夫、小林雅弘、斉藤尚人、竹村健一 [○]執筆責任者

第1表 金剛萱遺跡林道地点の調査経過

回	期間	人数	出土点数	人工品	おもな出土品
第1回	2011.9.23-25	17	21	10	剥片, 石斧調整剥片?
第2回	2014.11.22-24	21	11	4	局部磨製石斧, 剥片
第3回	2015.11.21-23	37	10	6	剥片, 石斧調整剥片?
第4回	2016.4.29-5.1	21	12	10	剥片
第5回	2016.10.29-30	9	7	5	削器, 剥片
第6回	2017.4.28-30	17	16	15	折断剥片, 剥片
第7回	2017.10.28	6	5	5	折断剥片, 剥片
第8回	2018.4.28-30	25	23	19	折断剥片, 剥片, 碎片
第9回	2018.10.27-28	8	2	2	折断剥片, 剥片
第10回	2019.4.27-29	21	35	34	折断剥片, 剥片, 碎片
第11回	2019.8.31-9.1	11	7	7	二次加工剥片, 折断剥片, 剥片
第12回	2020.10.2-4	10	19	17	折断剥片, 剥離痕のある剥片, 碎片
第13回	2022.11.18-20	15	7	6	尖頭形剥片, 剥片
第14回	2023.4.28-30	21	28	27	剥片
第15回	2023.10.20-22	12	55	50	剥片, 石核
		251人	258点	217点	
	期間	人数	場所	主な調査内容	
調査	2015.4.11-12	27	金剛萱	試掘調査, ハンドオーガー調査, 地すべり調査	
	2017.9.23-24	9	馬山、町内	遺跡分布調査, 段丘分布調査	



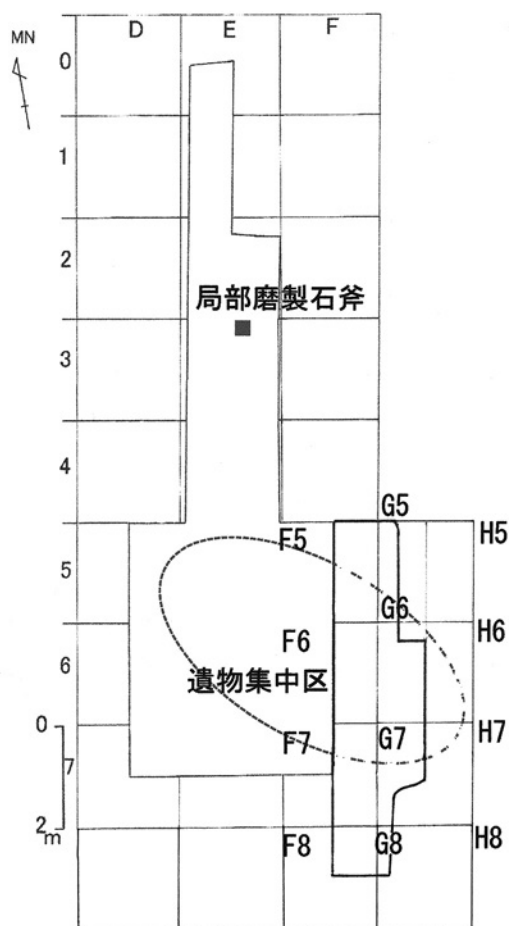
2023年発掘調査の概要

掘削調査は、第14回が2023年4月28日～30日の3日間で、参加者は21名であった。期間中は晴天で、調査は順調に進められた。第15回が2023年10月20日～22日の3日間（後片付けは11月11日まで）で、参加者は12名であった。期間中は晴天で、調査は順調に進められた。

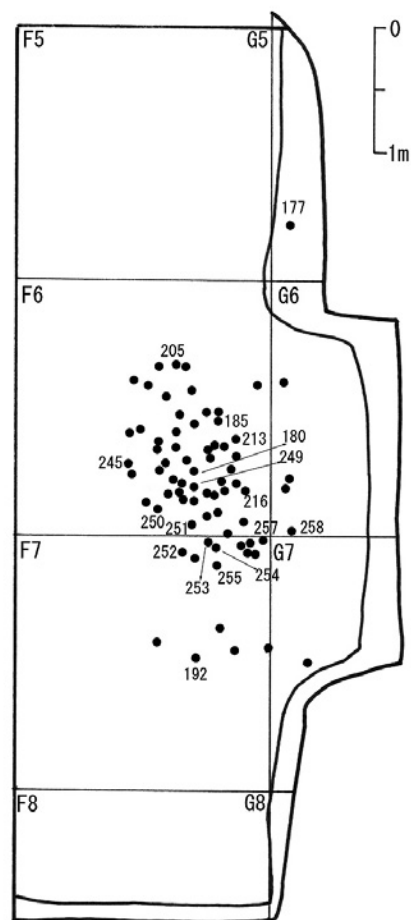
2022年からは従来の作業道の道路部分から東の山側にグリッドを拡張して設定した。グリッドは2 m単位で、F5, F6, F7グリッドとF8グリッド（北側）の東半分とさらにG6, G7グリッドの西半分の7 m × 1 m と 3 m × 1 m を中心とした合計 10 m²である（第3図、第4図）。2023年の2回の調査は、2022年の場所を引き継いで、さらに下層の調査を行った。

すでに包含層まで掘削されていたので、引き続きローム層を手掘りで掘削した。遺物包含層が予測される Yt-pm4層準を掘りきることを目指して全体を掘り進めた。今回も前回同様に年代測定用の炭化物の採集を目的としたが、炭化物は得られなかった。遺物は、第14回が無斑晶質安山岩製の剥片等28点、第15回が無斑晶質安山岩製の剥片等55点出土した。

なお、遺物の垂直位置は、第1回発掘以降、調査グリッド北西端のA杭（E0より1 m 南）を基準として、+200 cmにレベルを設定して発掘地および出土品の位置を計測している（金剛萱遺跡研究会2017）。今回の発掘では、遺構は出土していない。調査区のほぼ中央部にあたるF6, F7, G6, G7の4グリッドにかけて南北2.5 m、東西1.5 mの範囲に無斑晶質安山岩製の遺物密集区が検出された。



第3図 金剛萱遺跡林道地点の調査位置図
図下半部の太線範囲が第14回～第15回調査範囲



第4図 金剛萱遺跡林道地点の遺物分布図
第14回～第15回調査分

出土した遺物

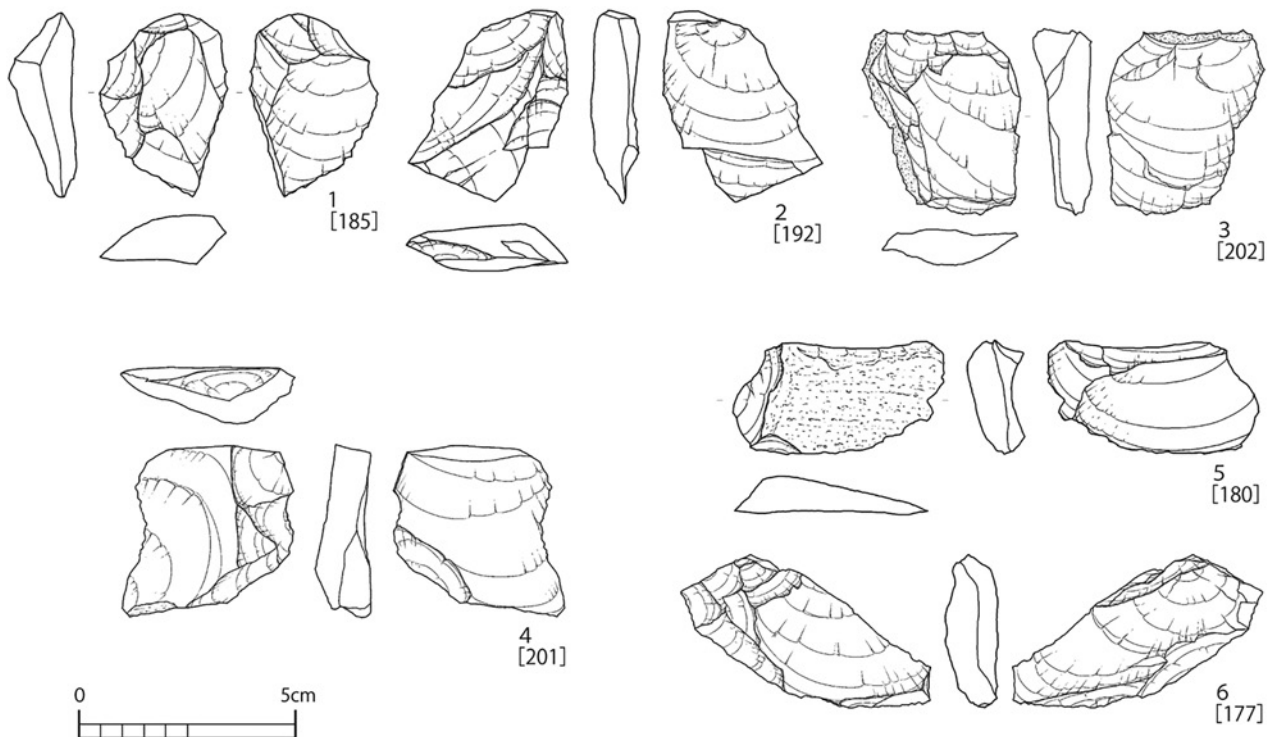
金剛萱遺跡林道地点の第14回調査で出土した石製の資料は、総数28点である。緑色岩の石片1点を除き、他27点はすべて無斑晶質安山岩製である。第15回調査で出土した石製の資料は、総数55点である。緑色岩の石片5点を除き、他50点はすべて無斑晶質安山岩製である。

第14回・15回調査で出土した主要な旧石器を示す(第5図, 第6図, 第7図)。計測にあたり主要剥離面のわかるものについては、剥離軸を基準に計測を行なった(第2表)。主要剥離面が明確でない碎片などについては、最大長を基準として計測を行なった。計測値はすべて見通しにおける値である。実測図には掲載番号と括弧内に遺物番号を付した。

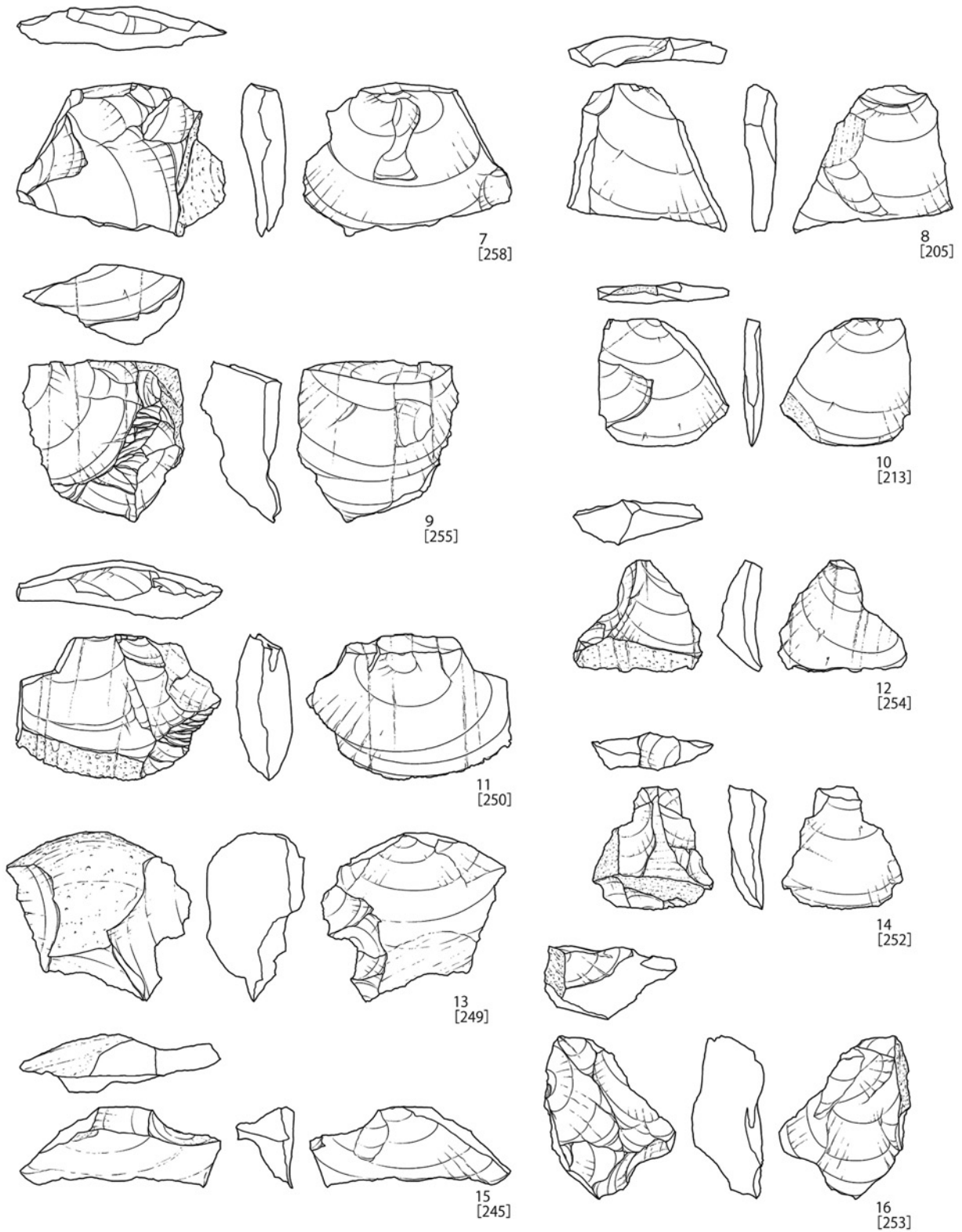
- 1：剥片。右縁辺部が欠損する。打面は双面、背面は複数の剥離面が見られる。
- 2：剥片。下部が欠損する。打面は平坦面、背面は複数の剥離面が見られる。
- 3：剥片。打面は礫面、背面は主要剥離面と同方向

向の剥離面と礫面が見られる。

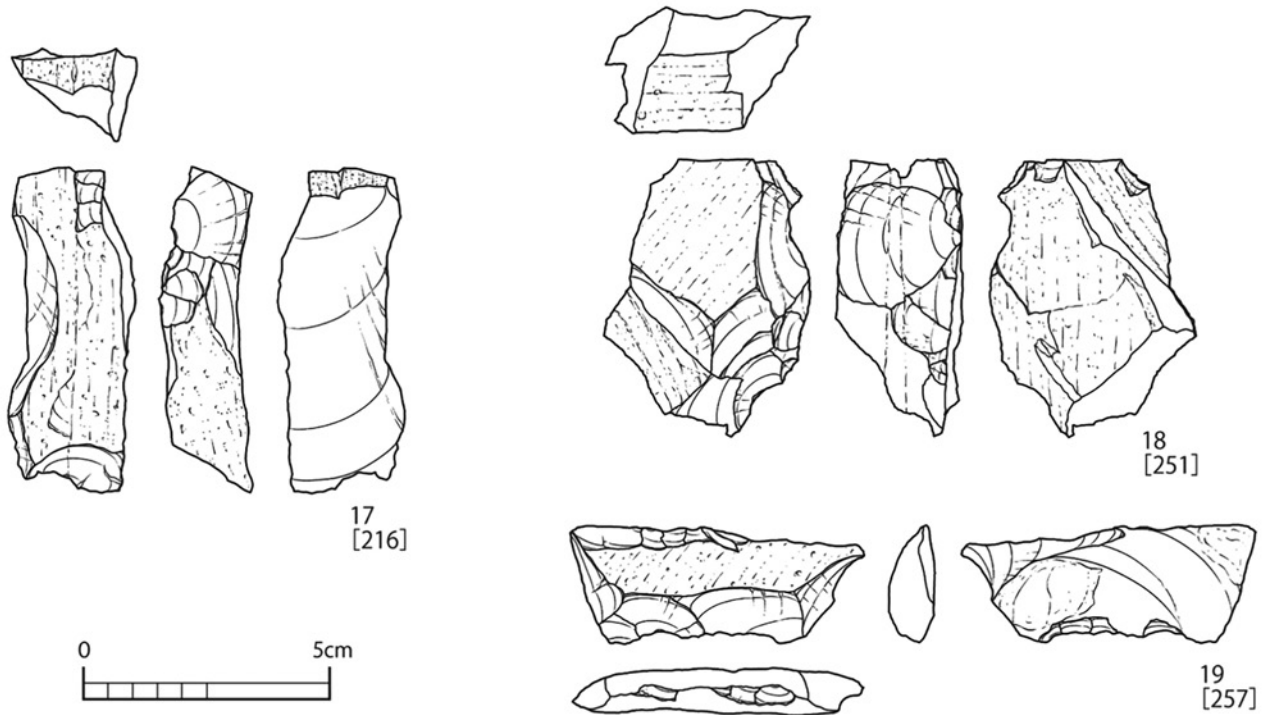
- 4：剥片。上部・下部が欠損する。背面は多方向からの複数の剥離面が見られる。
- 5：剥片。打面は平坦面、背面は礫面が覆い、一部に剥離面が見られる。
- 6：剥片。打点部・末端部が欠損する。打面は崩れており、風化や打撃によると思われる。背面は主要剥離面と同方向の剥離面が見られる。
- 7：剥片。打面は平坦面、背面は左方向からの剥離面が覆い、一部に礫面が見られる。
- 8：剥片。下部が欠損する。打面は平坦面、背面は主要剥離面と同方向の剥離面が見られる。
- 9：剥片。打面は平坦面、背面は自然面を切る左方向からの剥離面が見られる。この剥離面にNo.11が接合する。
- 10：剥片。左右縁辺部が欠損する。打面は礫面、背面は主要剥離面と同方向の剥離面が見られる。
- 11：剥片。打面は平坦面、背面は自然面を切る左方向からの剥離面が見られる。この剥離面に



第5図 第14回調査出土遺物の実測図 (3/5)



第6図 第15回調査出土遺物の実測図 (1) (3/5)



第7図 第15回調査出土遺物の実測図 (2) (3/5)

第2表 金剛萱遺跡・林道地点第14回 (No177-204)・第15回 (No205-259) 調査出土の遺物一覧

No.	図版	遺物番号	分類	遺存状態	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	深度(cm)
(第14回調査)										
1	6	kon_177	剥片	打点部・末端部欠	無斑晶質安山岩	34.3	56.9	12.7	16.9	121-126
2		kon_178	碎片	上部欠損	無斑晶質安山岩	8.6	15.9	3.0	0.4	147
3		kon_179	剥片	上部・下部欠損	無斑晶質安山岩	11.4	13.0	2.0	0.4	147
4	5	kon_180	剥片	完形	無斑晶質安山岩	27.5	48.4	13.2	15.0	144
5		kon_181	石片		緑色岩	38.0	22.7	13.2	7.0	136
6		kon_182	剥片	右縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	24.0	9.8	2.8	0.5	135
7		kon_183	剥片	完形	無斑晶質安山岩	10.2	11.5	3.2	0.2	152
8		kon_184	碎片	不明	無斑晶質安山岩	6.9	5.4	1.2	0.1	149
9	1	kon_185	剥片	右縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	42.3	28.9	14.3	14.5	150
10		kon_186	碎片	不明	無斑晶質安山岩	8.9	7.4	1.1	0.1	149
11		kon_187	剥片	下部欠損	無斑晶質安山岩	21.2	22.9	7.4	3.3	147
12		kon_188	碎片	不明	無斑晶質安山岩	8.0	4.9	1.2	0.1	151
13		kon_189	碎片	不明	無斑晶質安山岩	7.7	4.3	2.2	0.1	149
14		kon_190	碎片	不明	無斑晶質安山岩	5.7	3.2	0.8	0.1	148
15		kon_191	碎片	不明	無斑晶質安山岩	11.9	5.6	2.8	0.1	146
16	2	kon_192	剥片	下部欠損	無斑晶質安山岩	42.9	39.0	10.8	15.3	140
17		kon_193	碎片	完形	無斑晶質安山岩	6.7	8.4	2.0	0.1	152
18		kon_194	碎片	下部欠損	無斑晶質安山岩	5.0	10.2	2.2	0.1	150
19		kon_195	碎片	右縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	11.2	8.5	2.6	0.2	148
20		kon_196	碎片	下部欠損	無斑晶質安山岩	9.5	8.7	1.1	0.1	150
21		kon_197	碎片	不明	無斑晶質安山岩	6.6	3.3	2.2	0.1	151
22		kon_198	碎片	不明	無斑晶質安山岩	5.8	3.9	1.2	0.1	152
23		kon_199	剥片	左側縁部・下部欠損	無斑晶質安山岩	21.6	26.0	8.4	4.2	149
24		kon_200	剥片	右縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	23.9	12.7	3.0	0.7	147
25	4	kon_201	剥片	上部・下部欠損	無斑晶質安山岩	38.4	39.8	12.7	16.0	150
26	3	kon_202	剥片	完形	無斑晶質安山岩	42.8	35.5	9.7	15.6	143
27		kon_203	剥片	下部欠損	無斑晶質安山岩	22.4	37.1	12.4	11.0	141

金剛萱遺跡の旧石器文化8－2023－

No.	図版	遺物番号	分類	遺存状態	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	深度(cm)
28		kon_204	石核?	完形	無斑晶質安山岩	20.3	31.2	11.6	5.2	144
(第15回調査)										
29	8	kon_205	剥片	下部欠損	無斑晶質安山岩	48.6	52.8	11.1	27.8	160
30		kon_206	剥片	末端欠損	無斑晶質安山岩	43.3	44.9	9.4	16.2	160
31		kon_207	剥片	上部・左縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	12.8	18.8	7.6	1.5	155
32		kon_208	碎片	上部・右縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	10.0	9.2	2.5	0.2	154
33		kon_209	碎片	不明	無斑晶質安山岩	6.2	5.3	0.7	0.1	148
34		kon_210	剥片	左半部欠損	無斑晶質安山岩	27.0	25.6	11.0	6.2	154
35		kon_211	碎片	不明	無斑晶質安山岩	13.7	4.3	2.6	0.1	153
36		kon_212	剥片	打点部・左縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	31.5	51.0	8.4	12.9	161
37	10	kon_213	剥片	左右縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	42.1	42.5	7.7	15.1	158
38		kon_214	剥片	左縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	13.3	14.6	5.0	0.7	152
39		kon_215	剥片	上部・左半部	無斑晶質安山岩	14.4	18.1	3.0	0.9	153
40	17	kon_216	縦長剥片	末端部欠損	無斑晶質安山岩	66.2	25.3	17.3	34.5	155
41		kon_217	剥片	完形	無斑晶質安山岩	14.0	21.5	4.4	1.2	148
42		kon_218	剥片	上部・下部欠損	無斑晶質安山岩	16.1	17.9	7.7	1.3	155
43		kon_219	剥片	末端部欠損	無斑晶質安山岩	18.5	17.9	5.0	1.5	154
44		kon_220	石片		緑色岩	32.4	22.0	6.8	4.3	147
45		kon_221	石片		緑色岩	16.4	14.7	4.8	1.4	145
46		kon_222	石片		緑色岩	17.8	10.5	4.3	0.7	146
47		kon_223	石片		緑色岩					143
48		kon_224	石片		緑色岩	19.4	11.6	2.5	0.6	140
49		kon_225	剥片	完形	無斑晶質安山岩	21.6	27.5	7.7	3.1	160
50		kon_226	剥片	末端部欠損	無斑晶質安山岩	38.0	49.6	10.5	15.4	168-172
51		kon_227	剥片	左半部欠損	無斑晶質安山岩	32.3	46.0	8.4	12.6	168
52		kon_228	剥片	上下部欠損	無斑晶質安山岩	28.4	40.8	11.6	15.9	166
53		kon_229	剥片	完形	無斑晶質安山岩	17.9	18.2	9.0	1.7	166
54		kon_230	碎片	上部欠損	無斑晶質安山岩	16.9	10.4	8.0	0.9	158
55		kon_231	剥片	末端部欠損	無斑晶質安山岩	25.0	24.6	7.0	3.2	161
56		kon_232	碎片	左半部欠損	無斑晶質安山岩	9.4	9.0	1.8	0.2	162
57		kon_233	剥片	完形	無斑晶質安山岩	27.7	22.5	8.0	3.2	160
58		kon_234	剥片	上部欠損	無斑晶質安山岩	20.9	20.5	7.3	2.4	161
59		kon_235	剥片	左右縁辺部・末端欠損	無斑晶質安山岩	16.0	11.3	3.9	0.8	165
60		kon_236	剥片	下部欠損	無斑晶質安山岩	20.5	28.2	6.1	3.0	165
61		kon_237	剥片	右縁辺部・下部欠損	無斑晶質安山岩	31.0	47.3	13.6	15.4	153
62		kon_238	剥片	打点部欠損	無斑晶質安山岩	17.9	42.0	9.3	7.6	157
63		kon_239	剥片	右半部欠損	無斑晶質安山岩	32.3	22.6	10.8	5.0	156
64		kon_240	剥片	打点部・末端部欠	無斑晶質安山岩	16.8	30.8	6.0	2.6	151
65		kon_241	碎片	完形	無斑晶質安山岩	8.7	7.6	2.2	0.1	160
66		kon_242	碎片	不明	無斑晶質安山岩	14.0	7.1	5.4	0.4	157
67		kon_243	剥片	打点部欠損	無斑晶質安山岩	23.8	17.9	5.2	2.1	158
68		kon_244	剥片	右半部欠損	無斑晶質安山岩	43.3	37.3	16.6	21.4	158
69	15	kon_245	剥片	左端部欠損	無斑晶質安山岩	22.5	64.9	18.2	20.1	169-171
70		kon_246	剥片	完形	無斑晶質安山岩	25.8	48.9	16.8	17.0	163
71		kon_247	剥片	左半部欠損	無斑晶質安山岩	33.7	22.4	12.4	7.9	169
72		kon_248	碎片	不明	無斑晶質安山岩	5.6	4.0	1.0	0.1	168
73	13	kon_249	石核	完形	無斑晶質安山岩	62.2	50.3	32.0	85.8	162-166
74	11	kon_250	剥片	完形	無斑晶質安山岩	48.0	67.4	19.0	64.5	170-173
75	18	kon_251	石核	完形	無斑晶質安山岩	56.5	42.3	24.6	55.4	165-167
76	14	kon_252	剥片	完形	無斑晶質安山岩	41.8	39.2	13.4	17.7	164
77	16	kon_253	剥片	完形	無斑晶質安山岩	53.8	43.1	23.8	48.0	155-160
78	12	kon_254	剥片	完形	無斑晶質安山岩	36.8	42.4	14.7	15.3	157
79	9	kon_255	剥片	完形	無斑晶質安山岩	53.6	53.0	26.2	53.5	160-165
80		kon_256	剥片	左半部欠損	無斑晶質安山岩	33.5	8.8	14.1	4.9	162
81	19	kon_257	剥片	完形	無斑晶質安山岩	23.6	59.6	9.7	15.8	158
82	7	kon_258	剥片	完形	無斑晶質安山岩	50.5	68.7	14.7	41.8	159-165
83		kon_259	碎片	右縁辺部欠損	無斑晶質安山岩	6.3	8.1	2.7	0.2	—

No.12が接合する。

12：剥片。打面は平坦面，背面は主要剥離面と同方向の剥離面が見られる。一部に礫面が見られる。

13：剥片。打面は礫面，背面は礫面を主体に左右，下方向からの剥離面が見られる。

14：剥片。打面は平坦面，背面は礫面と剥離面が見られる。

15：剥片。左端部が欠損する。打面は複数の剥離面，背面は主要剥離面と同方向の剥離面が見られる。

16：剥片。打面は礫面，背面は複数の剥離面が見られる。

17：剥片。末端部が欠損する。打面は礫面、背面は礫面を主体に背部加工の可能性がある剥離面が見られる。風化による自然面の可能性もある。

18 (251)：石核。脈状の亀裂が作業面に直行して通り、剥離進行の妨げや剥落した部分が見られる。

19 (257)：剥片。打面は崩れており、風化や打撃によると思われる。背面は礫面を多く残す。打面から腹面側に複数の小剥離面が見られる。この小剥離面が人為的な加工か、風化による剥落かは確かではない。

所見：接合作業はまだ十分に行えていないが、すでにNo.9・11・12が連続的な接合を示している。実測図の3点は全て時間差を示す剥離面接合であり、母岩からの剥離過程を推定することが可能である。母岩は転石による強い摩耗を受けていることから、採取地は河川の可能性がある。このような母岩から剥離されたと思われるこれら剥片類には、明確な打面や頭部への調整加工が認められない。また、不定形かつ厚手の剥片が主体であることから、剥片生産を意図とした「深い打撃」によって剥離されたことがうかがわれる。

単一の遺物集中部を構成するこれら剥片と碎片の存在は、過去人類による石器の製作

と廃棄の活動を明確に示している。また、残された剥片の特徴からは、不定形な剥片のうちに適当な剥片を選び出して作業に利用するといったコンテキストが想定される。過去調査の出土資料と併せてさらに接合作業を進めていく必要がある。

金剛萱遺跡第14回、15回調査の意義

2023年度の調査は、2020年までに作業道部分で確認された遺物集中区の広がりを東方山側に拡張して、遺物の広がりを調べるのが目的であった。この遺物集中区は、暗色帯中に包含された無斑晶質安山岩の剥片を中心とするブロックである。このブロック内の遺物は、無斑晶質安山岩が圧倒的に多いこと、打面調整があまり行われず、平坦打面によるやや厚めの幅広で寸ぶまりの剥片剥離が行われていること、定型的な石器完形品がなく、剥片等が中心であることなどの特徴がみられる。今回資料の接合作業は終了していないが、このブロック内では接合資料を含み、折断剥片が多く確認されている。遺物集中区がほぼ確認でき、八風山産と推定される石材を持ち込み、剥片生産が集中的に行われていた石器製作場所であったと推定される。

旧石器時代の生活面がとらえられ、その層位的位置はAT下位の暗色帯中のYt-pm4に対比される軽石の層準と推定できた。この地層は、約20 km北西方の長野県佐久市の香坂山遺跡（国武ほか2021、2022）の主要な遺物包含層と共通するものである。また、佐久市立科F遺跡（須藤編1991）もこの層準に当たる。佐久市立科F遺跡では、二次加工が明瞭でない台形剥片（素刃石器）と多様な剥片を含む石器群である。金剛萱遺跡の石器群には、香坂山遺跡で確認される大型石刃・小石刃を明確には伴わないことから、ユーラシア大陸IUP（初期後期旧石器時代）の系譜にあたる香坂山石刃石器群に後続する立科F遺跡の初期台形様石器群に属するとみられる。初期台形様石器群は、武蔵野Xb層に代表され、日本列島の各地に確認される後期旧石器時代初頭の所産とみられる。

謝 辞

調査にあたっては、地主の泉 英明氏、うず潮レーシングの福本敏夫氏、青倉の神戸 求氏には大変お世話になった。下仁田町教育委員会と下仁田町自然史館には、指導・協力をいただいた。また、本稿は2名の査読者によって改善された。これらの方々に記して感謝する次第である。

文 献

- 関東火山灰グループ (2009) 群馬県甘楽郡下仁田町でみつかった下仁田ローム層の砂粒組成。群馬県立自然史博物館研究報告, 13, 87-93.
- 国武貞克・須藤隆司・堤 隆 (2021) 日本列島最古の石刃石器群の構成とその起源。旧石器研究, 17, 125-146.
- 国武貞克・須藤隆司・中村由克 (2022) 香坂山遺跡の立地と遺跡構造。旧石器研究, 18, 101-112.
- 金剛萱遺跡研究会 (2016) 金剛萱遺跡の旧石器・縄文文化。下仁田町自然史館研究報告, 1, 1-20.
- 金剛萱遺跡研究会 (2017) 金剛萱遺跡の旧石器2－2015・2016－。下仁田町自然史館研究報告, 2, 51-58.
- 金剛萱遺跡研究会 (2018) 金剛萱遺跡の旧石器3－2017－。下仁田町自然史館研究報告, 3, 23-26.
- 金剛萱遺跡研究会 (2019) 金剛萱遺跡の旧石器4－2017・2018－。下仁田町自然史館研究報告, 4, 37-44.
- 金剛萱遺跡研究会 (2020) 金剛萱遺跡の旧石器5－2019－。下仁田町自然史館研究報告, 5, 27-34.
- 金剛萱遺跡研究会 (2021) 金剛萱遺跡の旧石器6－2020－。下仁田町自然史館研究報告, 6, 55-60.
- 金剛萱遺跡研究会 (2023a) 金剛萱遺跡の旧石器7－2022－。下仁田町自然史館研究報告, 8, 27-32.

金剛萱遺跡研究会 (2023b) 後期旧石器時代初頭の群馬県金剛萱遺跡の調査。地学団体研究会第77回総会 (ちちぶ) 講演要旨集, 91-91.

金剛萱遺跡研究会「下仁田自然学校文庫8」編集委員会編著 (2014) 金剛萱に旧石器時代をさぐる－金剛萱遺跡と下仁田ローム層－。下仁田自然学校文庫8, 56P.

須藤隆司編 (1991) 「立科 F 遺跡」佐久市教育委員会, 99P.

調査参加者

麻生敏隆, 今井 洋, 今井よし子, 岩井裕子, 岩崎正春, 黒澤弘子, 小林忠夫, 小林雅弘, 小林康夫, 斉藤尚人, 須藤隆司, 竹村健一, 手嶋響紀, 寺尾真純, 中井均, 中川智津子, 中村由克, 野口智輝, 深沢科子, 深沢哲治, 両角太一, 渡辺弘幸 以上22人

執筆分担

「出土した遺物」, 第5図, 第6図, 第7図, 第2表:

両角太一, 野口智輝

それ以外: 中村由克, 須藤隆司, 麻生敏隆, 小林忠夫, 小林雅弘, 斉藤尚人, 竹村健一

付 記

下仁田町自然史館研究報告 第8号の第2図, 第3図の調査位置図には誤りがあった。本号の第3図, 第4図のものが正しい。第8号掲載分については, 次の包括報告で訂正する予定である。

抄 録

フリガナ	コンゴウカヤイセキノキュウセッキブンカ
書 名	金剛萱遺跡の旧石器文化8－2023－
副 書 名	
シリーズ名	下仁田町自然史館研究報告
シリーズ番号	第9号
編 著 者 名	金剛萱遺跡研究会
編 集 機 関	下仁田町自然史館／370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1
編集機関所在地	370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1
発 行 年 月 日	2024年3月31日
調 査 期 間	2022.4.28～30・2023.10.20～22（11.11）
調 査 面 積	10m ²
調 査 原 因	学術調査

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地			地町村 コード	遺跡 番号	北 緯	東 経
コンゴウカヤイセキ 金剛萱遺跡	グン マ ケンカン ラ グンシモ ニ タ マチアオクラコンゴウカヤ 群馬県甘楽郡下仁田町青倉金剛萱1031番			10382	54	36度10分53.5秒	138度46分55.2秒
	種別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物			
	散布地	旧石器時代		剥片，石核			

（要 旨）

金剛萱遺跡研究会（2024）金剛萱遺跡の旧石器文化8－2023－．下仁田町自然史館研究報告，9，27-36．

下仁田町青倉の金剛萱遺跡林道地点で，2023年に2回の調査を行なった．この調査で後期旧石器時代前半期の剥片83点が出土した．遺物集中区がほぼ確認でき，八風山産と推定される無斑晶質安山岩を持ち込み，剥片生産が集中的に行われていた石器製作場所であったと推定される．二次加工が明瞭でない台形剥片（素刃石器）を主体とするもので，佐久市香坂山遺跡のすぐ後に位置づけられる後期旧石器時代初頭の石器群とみられる．